

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド

愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート
基準日 2020年11月30日

【運用実績】

	過去のパフォーマンス(%)		直近の分配実績(円)		
	ファンド	ベンチマーク			
過去1か月間	4.86	9.34	第9期	2016/1/25	300
過去3か月間	4.36	8.28	第10期	2017/1/25	300
過去6か月間	8.02	11.55	第11期	2018/1/25	350
過去1年間	7.20	3.01	第12期	2019/1/25	300
過去3年間	9.93	-0.31	第13期	2020/1/27	350
設定来	222.17	52.01	設定来累計		1,850

※決算期に収益分配があった場合のファンドのパフォーマンスは分配金(税金控除前)を再投資することにより算出される収益率です。従って実際の投資家利回りとは異なります。

【資産別構成】

資産種類	比率(%)
株式	96.2
投資信託証券	1.3
その他株式関連証券	0.0
現金その他	2.5

※比率は対純資産総額

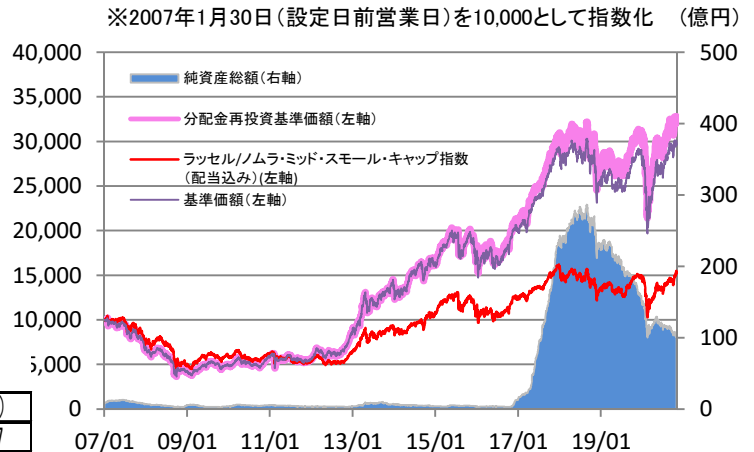
【株式市場別構成】

市場	比率(%)
東証1部	92.7
ジャスダック	2.0
東証マザーズ	1.5
その他市場	0.0
株式組入比率	96.2

※比率は対純資産総額

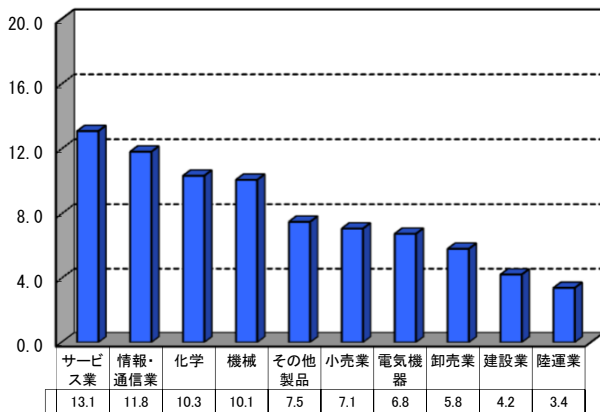
【基準価額・純資産総額の推移】

基準価額	解約価額	純資産総額
29,618 円	29,530 円	99.91 億円



※2007年1月30日(設定日前営業日)を10,000として指数化 (億円)
※当ファンドのベンチマークは、ラッセル/ノムラ・ミッド・スモール・キャップ指数(配当込)ですが、当ファンドはベンチマークに連動するものではありません。
※基準価額は、信託報酬等控除後です。
※分配金再投資基準価額は、当該ファンドの信託報酬控除後の価額を用い、分配金を非課税で再投資したものと計算しております。
※過去の実績は将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。

【株式業種別構成 上位10業種(%)】



※比率は対純資産総額

【組入有価証券 上位10銘柄】

(銘柄総数:65銘柄)

	銘柄	市場	業種	比率(%)
1	センコーグループホールディングス	東1	陸運業	3.4
2	シークス	東1	卸売業	3.4
3	前田工織	東1	その他製品	3.2
4	三洋化成工業	東1	化学	3.2
5	日本光電工業	東1	電気機器	3.0
6	グローブライド	東1	その他製品	2.6
7	アルヒ	東1	その他金融業	2.4
8	タクマ	東1	機械	2.4
9	東京応化工業	東1	化学	2.3
10	モリタホールディングス	東1	輸送用機器	2.2

※略称は下記の取引市場を指します。 ※比率は対純資産総額
東1: 東証1部、東2: 東証2部、マザーズ: 東証マザーズ、JQ: JASDAQ

※上記記載のうち、【運用実績】、【基準価額・純資産総額の推移】以外は、当ファンドが投資するマザーファンドに関する情報です。
※「比率(%)」は、当ファンドが投資するマザーファンドの純資産総額に対する比率です。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド
愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート

基準日 2020年11月30日

【運用担当者のコメント】

◆株式市場の状況

11月は、新型コロナウイルス用ワクチン開発の進捗報道を好感して、世界的に株式市場が大きく上昇し、日本株式市場も大きく上昇しました。

不振が続いていた景気敏感株が、「経済活動の正常化」への期待から大きく反発しました。

この結果、TOPIX（配当込み）は前月末比11.14%上昇し、当ファンドのベンチマークは同9.34%の上昇と、大型株よりも上昇率は低い状況でした。外国人投資家が買いに転じたことが株価上昇の一因ですが、外国人投資家が指数や大型株中心に投資したため小型株の上昇率が小さかったのではないかと考えます。

◆ファンドの運用状況

当月、当ファンドにおいては、業績復調期待が高まったシークスなどが上昇し、一方で過去の株価上昇の反動から前田工織などが下落しました。

投資行動の観点では、引き続き保有銘柄への買い増しとともに、株価が上昇し割安感が薄れた銘柄、当初の投資仮説から実態が乖離した銘柄の売却を行っています。

また、「コロナ禍」を受け、足許の需要は低迷しているものの再開案件の大型化・複雑化を受け事業領域の拡大が中長期で期待される建設関連の企業に、新規投資を行いました。

◆今後の運用方針

2020年は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に大きく翻弄された一年となりました。年初こそ堅調に推移していた株式相場でしたが、2月下旬からの新型コロナウイルス感染症が世界中に拡がり、主要市場は大幅な調整を余儀なくされました。その後、先進諸国による金融緩和政策や経済対策を背景に、業績好調なハイテク関連成長株が相場を牽引し、秋以降感染再拡大は進行しているものの、「リスクオンの展開」が続いています。

2021年の展望を考える上でも、世界的な新型コロナウイルスの感染状況は大きな不確実性要因です。ワクチン開発の進展はポジティブなニュースではあるものの、ワクチン普及には相応の時間を要し、その間の経済活動停滞が懸念されるためです。事実、各国の景況感は底打ち後地域間での格差が生じており、不確実性は高まる状況にあります。

このような環境下で、私どもは当ファンドの投資戦略の意義を改めて問い直す活動を進めてきました。様々な議論を経て、現時点で私どもの目指すビジョンを、「誰もが自信と誇りを持てる社会」と設定しました。

(次ページへ)

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。

スパークス・M&S・ジャパン・ファンド

愛称:華咲く中小型

マンスリーレポート

基準日 2020年11月30日

(前ページより)

弊社では1989年創業当初、「政府・官僚主義から市場主導の社会経済システムへの移行」という投資仮説を掲げ、中小型株式の運用を行ってまいりました。これは大企業に比べ中小企業は、政府や官僚による保護または規制から受ける影響が相対的に小さく、これらの企業の中から次世代の成長企業が現れると考えていたためです。

その後、20世紀の「大量生産大量消費フェーズ」が終焉し、地域間の競争環境や社会構造の転換の中で、企業が直面する課題はかつてない程に複雑さを増しています。日本経済は「失われた20年」という苦難に見舞われ、格差の広がりや社会不安などの数多くの課題に直面することとなりました。その中で日本の社会を構成する企業、人々は、かつての自信と誇りを失ったかのように見なされることも少なくありません。

しかし、そのような企業においても、その埋もれてしまった価値を再発見し、企業体としての効用を高めることはできると考えます。企業は本来、共有化された目的達成のため、継続的な意図をもって組織化された集団であり、その効用を最大化させる取り組みは社会にとっても意義のある活動です。もちろん中には、競争環境の変化から構造的な苦境に立たされている企業もあり難しい取り組みではありますが、長い日本株運用の歴史を持つ弊社にとって、この活動は万難を排しても取り組むべき社会的価値があると考えています。

また、日本株式市場には、上記した再活性化策を実行するための必要条件が複数存在しています。低成長率を反映した他国比でのバリュエーション面での割安感、堅固なバランスシートや豊富なキャッシュ、さらには政府主導によるコーポレート・ガバナンス改革の進展などです。特に市場からの関心が低く、注目されにくい銘柄が多く存在する中小型株はその潜在的な魅力がより大きい市場と言えます。

私どもの活動は、一義的には「割安な株を買い、割高になれば売る」という机上で行われるものですが、その背後には企業担当者やマネジメントの方々との対話から現地調査に至るまで、投資先/投資候補の企業との直接的なコミュニケーション活動が必ず存在しています。私どもはこの活動を通じ、投資の意思決定を行うに足る要素を得ようとしているわけですが、それは定量的なものに留まらず定性的な要素を多く含みます。

投資先企業とのコミュニケーション、すなわちエンゲージメント（対話）を通じて、市場から見落とされ、嫌われた状態にある企業に属する人々が自社の存在意義を問い直す中で価値を再発見したり、水面下で進む自己改革を加速させたりするきっかけとなるのであれば、それは企業に属する人々の自信や誇りにも繋がるのではないかと考えます。

広がる格差や不信の増大により進む社会の分断は、日本のみならず世界が抱える最も大きな課題の一つです。投資は直接的には社会への影響を与えるのが難しい活動ですが、エンゲージメント（対話）を通じた間接的な社会への貢献は、投資家として求められる重要な役割です。

私ども自身、より良い投資に向けた不断の努力を続け、投資戦略の洗練と提供価値の最大化を図ってまいります。

■当資料は販売用資料としてスパークス・アセット・マネジメント株式会社(以下当社)が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当ファンドの取得のお申込を行う場合には、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受け取りの上詳細をご確認いただき、ご自身でご判断ください。■当ファンドは値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。従って、元本が保証されているものではなく、組入れた有価証券の価格が下落する場合や、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む場合もあります。また、これらの運用による損益は全て受益者の皆様に帰属します。■投資信託は預貯金・金融債または保険商品ではなく、預金保険や保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、証券会社で購入した場合を除き、投資者保護基金の規定に基づく支払いの対象ではありません。■投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。■当資料に記載の内容は将来の運用結果を保証もしくは示唆するものではありません。■当資料に含まれている過去の実績の数値および市場動向等についてのコメントは当資料作成時点のものであり、市場動向や個別銘柄の将来の動きを保証するものではありません。■当資料の正確性や完全性について当社が保証するものではありません。また記載内容は予告なく訂正が行われることがあります。■当資料は目的によらず、当社の許可なしに複製・複写することを禁じます。■当ファンドに関する投資信託説明書(交付目論見書)のご請求、お問合せは販売会社まで。